

政治・経済

【解答】

I

解答 1	順不同	解答 2	解答 3	解答 4
b		e	f	b
解答 5		解答 6	解答 7	解答 8
c		f	c	d

II

解答 A	解答 B	解答 C
教育（普通教育）	納税	通常国会（常会）
解答 D	解答 E	解答 F
臨時国会（臨時会）	多重債務	自己破産（破産）
解答 G	解答 H	
マス＝メディア	無党派層	

III

少子高齢化が進むと、医療保険や年金保険の保険料を負担する生産年齢人口が減少する一方で、高齢者にかかる医療や介護、年金などの社会保障費が増大することから、社会保障の費用を負担する現役世代に過大な負担を強いることになる。そのため、国民生活の安定を保障している社会保障制度を今後も維持していくためには、給付水準とその負担のバランスをいかに図っていくのかを国民的な議論を通じて解決していかなければならない。

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して解答する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。2018年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問3題の内、大問Ⅰが空欄補充問題（記号選択式8問）、大問Ⅱも空欄補充問題（語句記述式8問）、大問Ⅲが200字程度の説明論述式問題（1問）となっている。空欄補充問題における政治分野・経済分野の比率は1：1であり、両分野の幅広いテーマから出題されている。説明論述式問題は、2017年度は政治分野・経済分野から各1問ずつ、100字程度で説明する問題が出題されたが、2018年度は経済分野からの出題のみであった。

全体としては基本事項を問う問題で構成されており、教科書レベルの知識を問う標準的な出題である。

以下、大問ごとに内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰの空欄補充問題は、様々な分野をテーマとする問題文が4つ用意されている。各問題文にそれぞれ2つの空欄があり、6つの選択肢から2つの正答となる選択肢を選び出す形式を採っている。問題文の内容は問1が政治分野（日本国憲法の三大原則、2問）、問2～問4が経済分野（物価問題、ブレトンウッズ体制、地球温暖化、各2問ずつ）となっている。

大問Ⅱの語句記述式の空欄補充問題は、様々な分野をテーマとする問題文が4つ用意されており、各問題文にそれぞれ2つの空欄がある。(1)は国民の三大義務、(2)は国会の種類、(3)は消費者問題、(4)は世論について出題されている。

大問Ⅰ、Ⅱとも基本的な知識を問う問題であるので、取りこぼすことなく、全問完答をめざしてもらいたい。そのためには、まず、教科書を繰り返し熟読し、基本的な知識の習得に努めることが重要である。その際、意味のわからない用語が出てきた場合には、用語集で必ず意味を確認するようにしてほしい。なお、2018年度は出題がなかったが、2017年度には、具体的な数値を問う問題が出題されているので、最新版の資料集を手元に置いておくとういだろう。知識のインプットが済んだら、問題集を活用して、アウトプットを行ってもらいたい。具体的には、通学時などの細切れの時間に一問一答形式の問題集で知識の確認をしつつ、私立大学の問題を収録した問題集を1、2冊仕上げれば十分である。

大問Ⅲは「少子高齢化が進むことで生じている社会保障制度の負担に関する課題」について200字程度で説明する問題である。一般に、論述式の問題は、苦手とする受験生が多く、点差が大きく開きがちである。本学の問題においても、大問Ⅲを攻略できるかどうか合否の鍵を握っていると言えるが、本学の論述式問題は教科書に載っている重要事項の意味等を説明させる問題が中心であるので、日頃の学習の中で重要事項の意味等を100～200字程度でまとめることを心がけておけば十分対応が可能である。その上で、できれば学校や塾・予備校の先生に添削をしてもらい、記述内容に過不足がないかどうか、チェックしてもらおうといだろう。

なお、政治・経済という教科は時事的な話題に最も敏感な教科である。本学の2018年度の問題でも、大問Ⅲでタイムリーな話題が出題されているので、日頃から新聞に目を通す習慣をつけておくとういだろう。また、論述式問題対策としては、時事的な話題の解説と関連用語を見開き2ページでまとめている『朝日キーワード』（朝日新聞出版）の併用を薦める。

最後に、本学の問題には難問・奇問の類はまったくないので、地道に勉強を続けていけば必ず高得点をあげることが可能である。最後まであきらめずに勉強を続け、合格を勝ち取ってもらいたい。